



HOME THEATER SOUND SYSTEM

# TSS-1



## 取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、ヤマハホームシアターサウンドシステム TSS-1 をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

TSS-1 の優れた性能を十分に発揮させると共に、未永くご愛用いただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

本システムは以下の製品で構成されています。

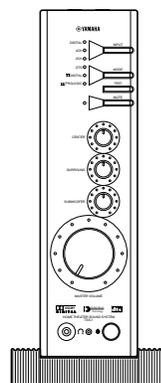
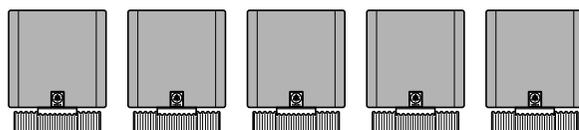
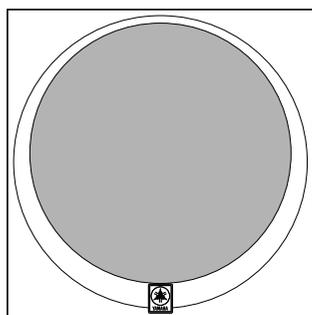
アンプユニット X 1台

サテライトスピーカー X 5台

サブウーファー X 1台

### 目次

特長 .....	2
△ 安全上のご注意 .....	4
設置について .....	8
接続のしかた .....	10
各部の名称とはたらき .....	11
スピーカーの音量バランスを調整する .....	14
再生のしかた .....	15
故障かなと思ったら .....	16
仕様 .....	18
ヤマハホットライン サービスネットワーク .....	裏表紙



# 特長

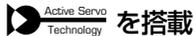
## ●ホームシアターサウンド

DVDビデオの5.1チャンネルサラウンドサウンド再生や、コンピューターの4ch Direct Sound3D対応ゲームの再生などに適したホームシアターサウンドシステムです。

## ●ドルビーデジタルデコーダーおよびDTSデコーダーを搭載

ドルビーデジタルやDTSでエンコードされた映画ソフトのサラウンド音場を忠実に再生します。映画館の迫力と臨場感をご家庭でお楽しみいただけます。(次ページをお読みください。)

## ●サブウーファーには豊かな重低音を再生するヤマハ アクティブサーボ テクノロジー



## ●デジタル入力端子2系統（光／同軸）、アナログ入力端子2系統（FRONT/SURROUND）を装備

DVDプレーヤーやゲーム機などのデジタル音声入力用に2系統のデジタル入力端子(光／同軸)を搭載。パソコンやその他のアナログ入力用に2系統のアナログ入力端子(FRONT/SURROUND)を搭載。4チャンネル出力を持つサウンドボードからのサラウンド入力にも対応します。

### 付属品がすべてそろっているか、確認してください。

- ACアダプター(PA-SR601)(1個)
- ステレオミニプラグコード(2本)
- 光ファイバーケーブル(1本)
- ピンプラグケーブル(1本)
- アンプユニット用スタンド(1個)
- ネジ(2本)
- パッド(24個)
- 固定用テープ(1個)

## ようこそ、迫力と興奮のデジタルホームエンターテインメントの世界へ

TSS-1は臨場感あふれるエンターテインメントをご家庭にお届けするAVシステムです。

ドルビーデジタルやDTSデコーダーをはじめとする本システムの最新技術により、世界の主要劇場で繰り広げられているドルビーデジタルやDTSの音場体験をご家庭においてもお楽しみいただけるようになりました。本取扱説明書をよくお読みいただき、本機がもたらす新しい音場体験を心ゆくまでお楽しみください。

### ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、左右2つのメインチャンネル、主にセリフを再生するセンターチャンネル、効果音やBGMを再生するサラウンドチャンネルの、4チャンネル方式を採用しています。(サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。)

この方式は現在、ほとんどのビデオテープ、LDの他、テレビ、ケーブル放送などにも広く普及しています。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーが、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

### ドルビーデジタル5.1チャンネル\*

ドルビーデジタル5.1チャンネルは、完全に独立したマルチチャンネル音声をお届けするデジタルサラウンドシステムです。フロントの3チャンネル(レフト、センター、ライト)と、サラウンドのステレオ2チャンネルがあり、それぞれフル帯域の音声成分を持っています。更にLFE(Low Frequency Effect)と呼ばれる、他のチャンネルとは別に設けられた低音域専用のチャンネルを加え、合計5.1チャンネルとなります(LFEは0.1とカウントされます)。

フル帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジ(最大音から最小音までの幅)と、正確な音の定位が、かつてないような迫力とリアリズムを再現します。

### DTS(デジタル・シアター・システム)デジタルサラウンド\*\*

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる6チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。その厚みのある音と自然な空間表現を家庭でも楽しめるように、DTSテクノロジー社が家庭用システムを開発しました。極めて劣化の少ないクリアな音質の6チャンネル(技術的にはレフト、ライト、センター、2つのサラウンドチャンネルに、サブウーファース用LFE 0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル)で、現在のホームシアターの5.1スピーカーシステムに対応します。

### メモ

DTS対応のCDやLDの再生に引き続いて通常のCDなどを再生する場合は、インプットモードを再設定するなどの操作が必要となることがあります。

一部のCDプレーヤー(およびLD、DVDプレーヤー)では、本システムとデジタル接続しても、DTS再生ができない場合やノイズが発生する場合があります。これは、プレーヤーのデジタル出力データに何らかの処理がされている場合、通常のデジタル音声ではわずかな音量差やわずかな周波数特性差にしかならない処理でも、DTSデータではエラーを生じ再生ができなくなるからです。

DTS対応のLDやCDを再生中にプレーヤーのデジタル出力にエラーが生じると、再生ができなくなることがあります。この場合は再生を中止し、プレーヤーの電源を入れ直してください。コンピューターからのデジタル音声信号を再生する場合、WAVE等の信号にエラーが生じると、ノイズが発生したり再生できない等の原因になります。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「Dolby」,「Pro Logic」及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

非公開機密著作物。著作権1992~1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。



DTS Technology LLCからのライセンスに基づき製造されています。

さらに、以下のPCT(特許協力条約)US95/0059に由来する米国特許5,451,942および米国国内特許出願によるライセンスを受けています。米国特許および外国特許を追加出願中です。

“DTS”はDTS Technology LLCの商標です。

なお、これらの一部または全部を許可なしに複製することはできません。

# ⚠️ 安全上のご注意

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。また、記載のイラストはイメージイラストで、ご購入の製品とは形状が異なる場合がありますのでご了承ください。

## 絵表示の例



この絵表示は、気をつけて頂きたい「注意喚起」の内容です。



この絵表示は、必ず実行して頂く「強制」の内容です。



この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です。



この絵表示は、スイッチを切り、電源プラグを抜く内容のものであります。

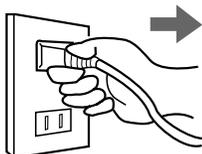


## 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



煙が出たり変なにおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く  
また、電源プラグの抜き差しがしやすいコンセントに接続する



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



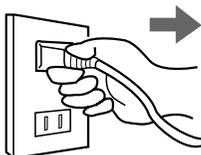
機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



販売店に点検をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



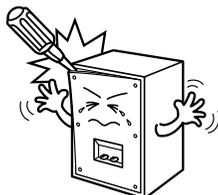
落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



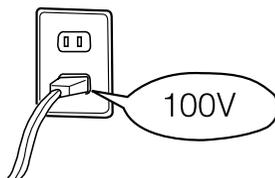
分解・改造を絶対しない  
分解禁止 (キャビネットをはずすことも含む)



火災・感電・ケガの原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。



電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない



火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。

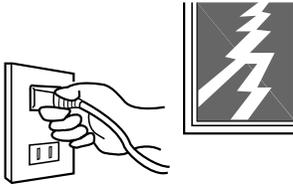


## 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



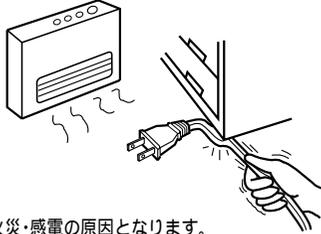
雷が鳴っているときは電源プラグに触れない



感電の原因となります。



電源コード・プラグを破損するようなことをしない  
(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っばる、束ねる、重いものをのせるなどしない)



火災・感電の原因となります。  
コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。



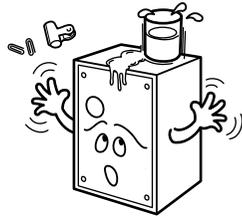
電源プラグのほこりなどは定期的にとる



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。  
電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。



水や金属類を入れたり、ぬらさない



火災・感電の原因となります。  
本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。



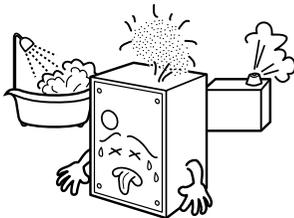
本機をテーブルクロス等で覆わない



内部に熱がこもり、火災の原因となります。



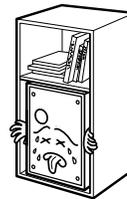
湿気やほこりの多い場所に置かない



加湿器を使用する場合は、本機との間に十分なスペースをとり、加湿しすぎないようにしてください。本機内部に結露が生じると故障するだけでなく、火災・感電の原因となることがあります。



放熱をよくするために密閉された狭い場所には置かない

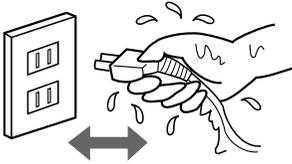


火災・故障の原因となります。ラックなどに入れるときは、本機の背面から10cm以上のすきまを開けてください。

# ⚠️ 注意

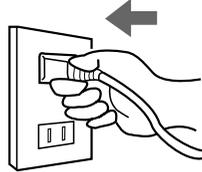
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



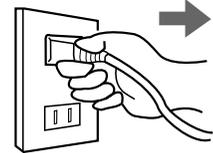
感電の原因となります。

- 電源プラグは根元まで確実に差し込む



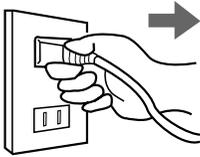
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。  
抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っばらないでください。  
傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

- 各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する



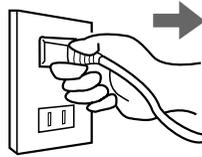
各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

- 移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す



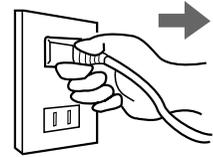
コードが傷つくくと火災・感電の原因となります。

- お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く



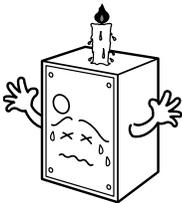
感電の原因となります。

- 長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く



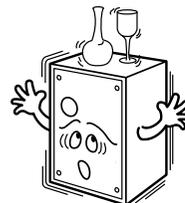
火災の原因となることがあります。

- 火のついたローソクなどを置かない



火災・感電の原因となったり、火傷をする恐れがあります。

- 陶器やガラス類などを置かない

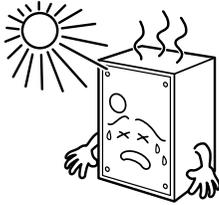


振動により落ちたり、倒れたり、割れたりするとケガをする恐れがあります。

**⚠ 注意**

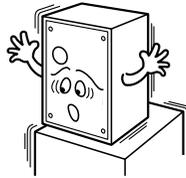
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- ⊘ 直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない



キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となります。

- ⊘ 振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



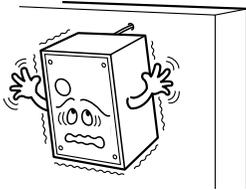
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

- ⊘ センタースピーカーは付属の固定用テープを使用せずにモニター等の上に置かない



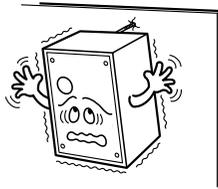
落ちてけがをする恐れがあります。

- ⊘ 壁に取り付ける場合、くぎなどの抜けやすいものは絶対に使用しない



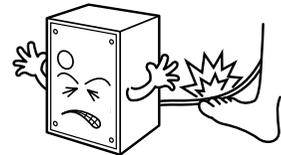
長時間の使用や振動でくぎが抜けて本機が落下しますと、けがをする恐れがあります。

- ⊘ 本機を薄いベニヤ板の壁や柔らかい壁には取り付けない



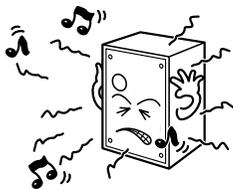
木ネジが抜けて本機が落下しますと、けがをする恐れがあります。

- ❗ スピーカーコードは必ず固定する



コードを足や手に引っかけ、スピーカーが破損する原因となります。また、壁に掛けて使用する場合、落ちてけがをする恐れがあります。

- ⊘ 長時間、音が歪んだ状態で使用しない



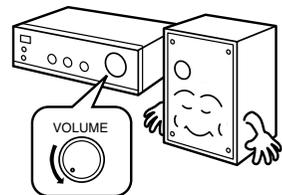
スピーカーが発熱し、故障や火災の原因となります。

- ⊘ ヘッドホンを使うときは、音量を上げすぎない



大きな音で聞くと、聴力障害の原因となります。

- ⚠ ソースをスタートする前には必ず音量を最小にする



突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

# 設置について

## システム構成

本システムは以下の製品で構成されています。

アンプユニット X 1台

サテライトスピーカー(3mコード付き) X 3台

\* フロント(右、左)およびセンタースピーカー用に  
使用します。

サテライトスピーカー(7mコード付き) X 2台

\* サラウンドスピーカー(右、左)用に使用します。

サブウーファー X 1台

## 各スピーカーの役割

サラウンド再生の場合、フロントスピーカー(右、左)はメインチャンネルからのメイン音声信号を再生します。また、サラウンドスピーカー(右、左)はサラウンドチャンネルからの効果音等を再生し、センタースピーカーはセンターチャンネルからの音声信号(人物の会話など)を再生します。

サブウーファーは低音補強用として、フロント、サラウンド、センターの各チャンネルからの低域成分のみを集め再生します。また、ドルビーデジタルやDTS再生の場合、サブウーファー(LFE)チャンネルからの特殊低域効果音なども再生します。

## 各スピーカーの配置

スピーカーの配置は、システム全体の音質に大きく影響するため重要です。下記説明にしたがい、各スピーカーを適切な位置に設置してください。

\* サテライトスピーカーは壁に掛けることもできます。  
(次ページ参照)

### フロントスピーカー

従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。モニターを設置している場合は、モニターの両脇に設置してください。

### サラウンドスピーカー

リスニングポジションよりも後方、または部屋の両サイドに設置します。お部屋の状況に合わせて、床や棚に置いたり、壁に掛けることもできます。

### センタースピーカー

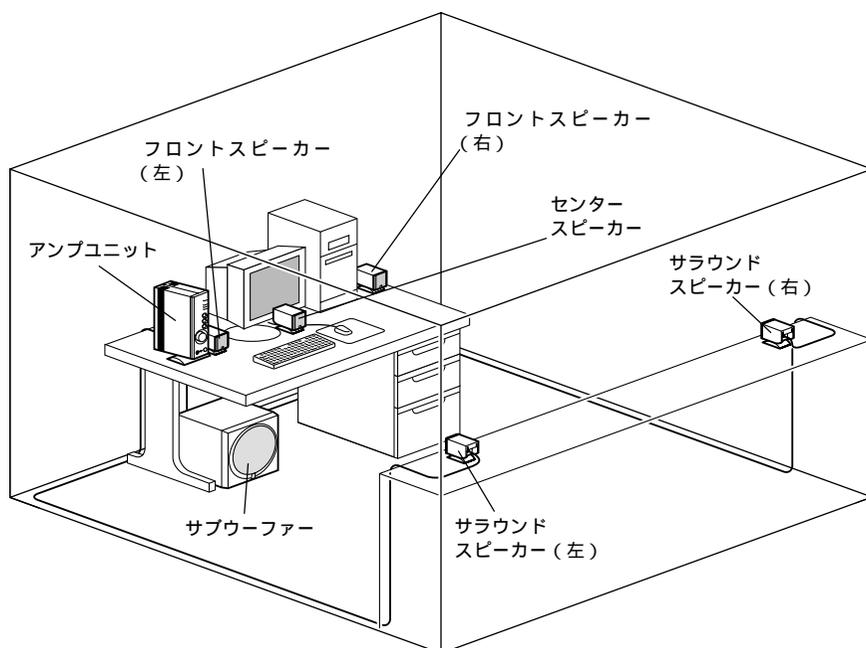
左右フロントスピーカーの間(各フロントスピーカーから等間隔の位置)に設置します。

\* センタースピーカーはモニターの上に置くこともできます。(次ページ参照)

### サブウーファー

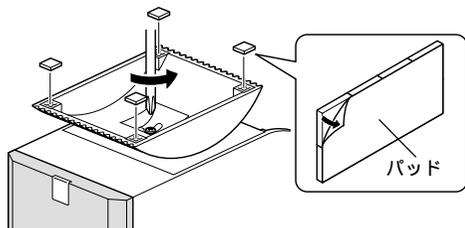
床の上に設置します。低音の聴こえかたは、サブウーファーを置く位置や聴く位置によって異なりますので、設置場所を変えてお試しください。

## 設置例

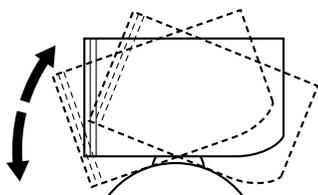


サテライトスピーカーの角度を調整するには

- 1 スピーカースタンドを取り付けているネジを、スタンドが動く程度にゆるめます。  
\* 安定性向上のため、スピーカー底面の四隅に付属のパッドを貼り付けます。



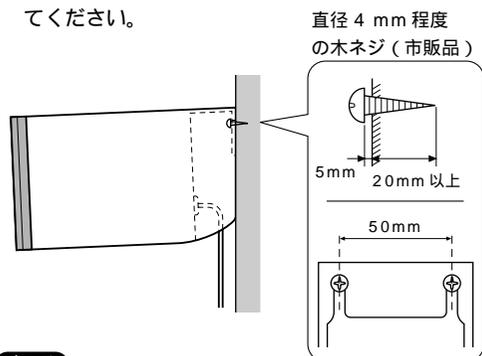
- 2 スピーカーを適切な角度に調整し、ネジを締め直します。



サテライトスピーカーを壁に掛けるには

サテライトスピーカーを取り付ける壁側に2本の木ネジ(市販品：直径4 mm程度)を50 mm間隔にて取り付けます。スピーカー背面の細長い切り込み部を木ネジに引っ掛けます。

- \* 切り込み部が木ネジに確実に掛かっていることを確認してください。



### ご注意

(重要なご注意です。必ずお読みください。)

スピーカーの重量は1台約0.4 kgです。ネジを止める場所には、しっかりとした壁または柱を選んでください。モルタルや化粧ベニア板など、はがれやすい材質の壁には取り付けしないでください。ネジが抜けてスピーカーが落下するとかげの原因になります。

釘などの抜けやすいものは使用しないでください。長時間の使用や振動で抜けてスピーカーが落下するとかげの原因になります。

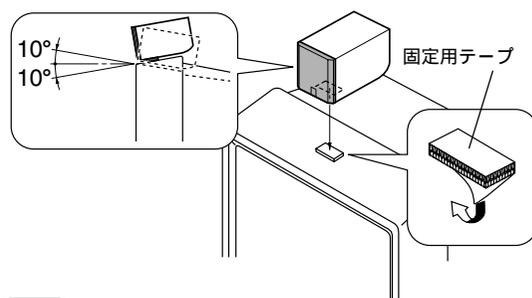
スピーカーコードを足や手に引っかけて本機を落下させることのないように、コードは必ず固定してください。

取り付け後は必ず安全性を確認してください。

取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

センタースピーカーをモニターの上に設置するにはスピーカーからスタンドを取り外し、付属の固定用テープを図のようにセンタースピーカー底面とモニターの上面に貼り、確実に固定します。

- \* モニターの上面が傾いている場合、もし傾きが水平面に対して10°以上ある場合は、モニターの上には設置しないでください。



### メモ

スピーカーは防磁設計となっていますが、コンピューターのモニターやテレビの近くに設置すると画像が歪むことがあります。そのような場合は、離してご使用ください。

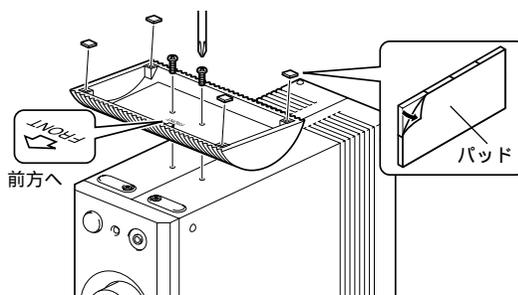
テープをはがした後、接着面には触れないでください。接着強度が弱くなります。

固定テープを貼る部分はきれいに拭いておいてください。ほこりや油、水などが付着していると、テープの接着強度が弱くなり、スピーカーが落下する恐れがあります。

アンプユニットにスタンドを取り付ける

安定性向上のため、アンプユニットに付属のスタンドを取り付けることをおすすめします。

はじめにスタンド底面の四隅に付属のパッドを貼り付け、スタンドの前後方向を確認した後、付属のネジで取り付けます。



# 接続のしかた

## 正しい接続のために

接続をおこなう前に、接続する全ての機器の電源コードをコンセントから外してください。また、付属のACアダプターは接続が完了した後でアンプユニットに接続してください。

下記の説明に従って接続してください。

- A** : 3mコード付きのサテライトスピーカー(3台)を、それぞれFRONT L、RおよびCENTER端子に、7mコード付きのサテライトスピーカー(2台)を、それぞれSURROUND L、R端子に、そしてサブウーファース. WOOFER端子に接続します。

- B** : 本システムに再生信号を送る外部機器(パソコン、ビデオゲーム機、DVDプレーヤー、ビデオデッキなど)を接続します。

OPTICAL端子への接続には付属の光ファイバーケーブルを、COAXIAL端子への接続には付属のピンプラグケーブルを使用してください。

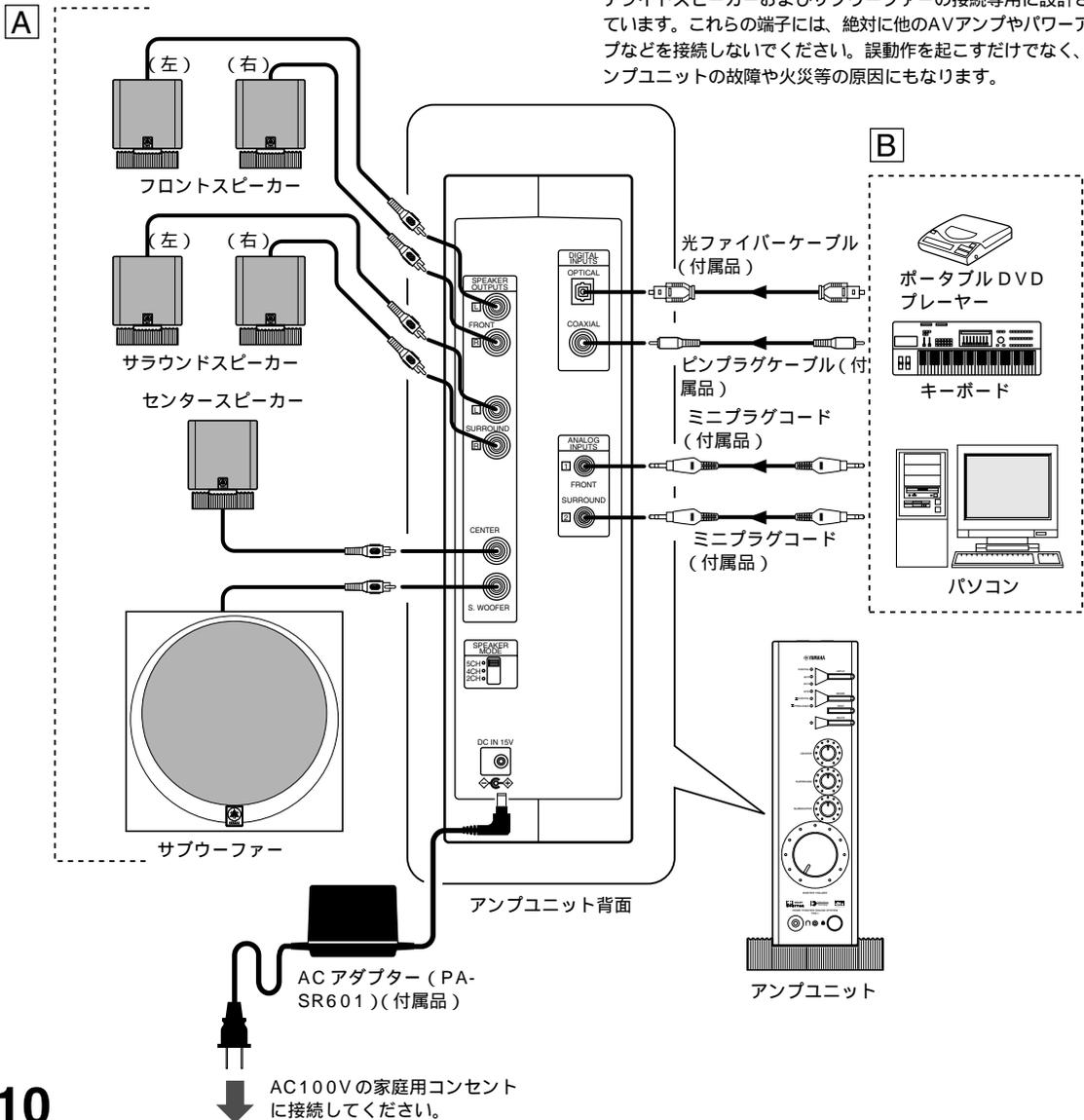
アナログインプットFRONT/SURROUND端子への接続には付属のステレオミニプラグコードを、または必要に応じて市販のピン(ステレオ)/ミニ(ステレオ)変換コードを使用してください。

### ご注意

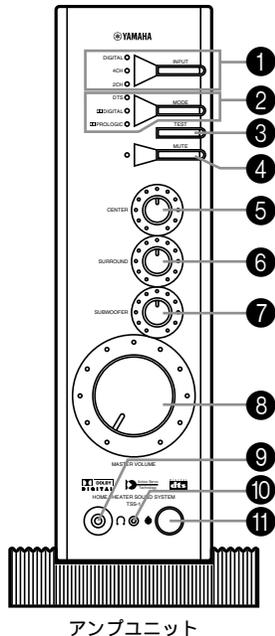
付属のACアダプターを机などの上に置く場合は、落下することのないよう必ず固定してください。もし落ちた場合、アダプターや他の機器の破損だけでなく、けがをする原因にもなります。

必ず付属の専用ACアダプターをご使用ください。他のACアダプターの使用は本機の故障や火災の原因となります。

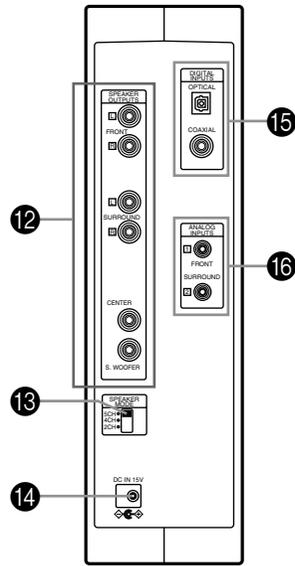
アンプユニット背面のSPEAKER OUTPUTS端子は、付属のサテライトスピーカーおよびサブウーファースの接続専用設計されています。これらの端子には、絶対に他のAVアンプやパワーアンプなどを接続しないでください。誤動作を起こすだけでなく、アンプユニットの故障や火災等の原因にもなります。



# 各部の名称とはたらき



アンプユニット



アンプユニット背面

## ① インプットセクターキー / インジケータ (INPUT)

押すごとに、DIGITAL、4CH、2CHの順でインプットモードを切り替えます。現在選択されているモードのインジケータが点灯します。

### DIGITAL:

アンプユニット背面のOPTICAL端子、またはCOAXIAL端子に入力された信号を再生するときに選択します。(OPTICAL端子が優先されます。)

### 4CH:

アンプユニット背面のアナログインプットFRONT端子、およびSURROUND端子に入力された信号を、4チャンネルサラウンドモードで再生するときに選択します。(このモードではセンタースピーカーから音は出ません。)

### 2CH:

アンプユニット背面のアナログインプットFRONT端子に入力された信号を再生するときに選択します。(DIGITAL PROLOGICサラウンドモードを使用することができます。)

## ② サラウンドモードセクターキー / インジケータ (MODE)

押すごとに、“オン”(DTS、DIGITAL、PROLOGIC)と“オフ”が切り替わります。現在選択されているモードのインジケータが点灯します。

\* サラウンドモードがオフのときにDTSまたはDOLBY DIGITALでエンコードされた信号が入力された場合、それぞれのインジケータが薄暗く点灯します。

### DTS:

DTSでエンコードされた入力ソースをDTSサラウンドモードで再生するときに選択します。

このモードは、入力ソースがDTSでエンコードされ、かつインプットモードがDIGITALに設定されているときのみ選択できます。

### DIGITAL:

DOLBY DIGITALでエンコードされた入力ソースをDOLBY DIGITALサラウンドモードで再生するときに選択します。

このモードは、入力ソースがDOLBY DIGITALでエンコードされ、かつインプットモードがDIGITALに設定されているときのみ選択できます。

### PROLOGIC:

DOLBY PROLOGICでエンコードされた入力ソースをDOLBY PROLOGICサラウンドモードで再生するときに選択します。

また、インプットモードが4CHに設定されているときは選択できません。

# 各部の名称とはたらき

## ③ テストキー<sup>テスト</sup>(TEST)

スピーカーからテストトーンを鳴らすときに押します。テストトーンは下記の順に鳴ります。テストトーンは、各スピーカー間の音量バランスを調整するときに役立ちます。

フロント (左) → センター → フロント (右)  
↑ サラウンド (左) ← サラウンド (右) ←

\* 背面のスピーカーモードスイッチ (⑬) の設定によっては、テストトーンは全てのスピーカーからは鳴りません。

## ④ ミュートキー／インジケーター<sup>ミュート</sup>(MUTE)

一時的に音を消したいときに押します。この機能によって音が消えている間はインジケーターが点灯します。もう一度キーを押すとこの機能が解除され、もとの音量に戻ります。

\* 電源オン／スタンバイの切替、またはインプットモードやサラウンドモードの切替によってもこの機能は解除されます。

## ⑤ センターレベルコントロール<sup>センター</sup>(CENTER)

センタースピーカーの音量を調節するつまみです。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

## ⑥ サラウンドレベルコントロール<sup>サラウンド</sup>(SURROUND)

サラウンドスピーカーの音量を調節するつまみです。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

## ⑦ サブウーファーレベルコントロール<sup>サブウーファー</sup>(SUBWOOFER)

サブウーファーの音量を調節するつまみです。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

## ⑧ マスターボリュームコントロール<sup>マスター</sup> <sup>ボリューム</sup>(MASTER VOLUME)

本システム全体の音量を調節するつまみです。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

## ⑨ ヘッドホン端子

ヘッドホンを接続するミニ端子です。この端子にヘッドホンを接続しているときは、スピーカーから音は出ません。

\* サラウンドモード時は、ヘッドホンから聴こえる音は次のようになります。

- マルチチャンネルのデジタル音声は、2チャンネルにミックスダウンされて聴こえます。
- アナログ音声は、FRONT端子から入力された音のみが聴こえます。

## ⑩ 電源インジケーター

電源を入れると点灯します。

## ⑪ 電源スイッチ

押すごとに、アンプユニットをスタンバイ状態から電源オンに(またはその逆に)切替えます。電源がオンのとき、電源インジケーター(⑩)が点灯します。

\* スタンバイ状態とは、電源が完全に遮断されているのではなく、極くわずかな電力が消費されている状態です。

## ⑫ スピーカー出力端子<sup>スピーカー</sup> <sup>アウトプット</sup>(SPEAKER OUTPUTS)

<sup>フロント</sup> FRONT:

3mコード付きのサテライトスピーカー1台をL端子に、もう1台をR端子に接続します。これらのスピーカーはフロントスピーカーとして使用します。

<sup>サラウンド</sup> SURROUND:

7mコード付きのサテライトスピーカー1台をL端子に、もう1台をR端子に接続します。これらのスピーカーはサラウンドスピーカーとして使用します。

<sup>センター</sup> CENTER:

3mコード付きのサテライトスピーカー1台をこの端子に接続します。このスピーカーはセンタースピーカーとして使用します。

<sup>スーパーウーファー</sup> S. WOOFER:

サブウーファーをこの端子に接続します。

## ⑬ スピーカーモードスイッチ<sup>スピーカー</sup> <sup>モード</sup>(SPEAKER MODE)

通常は5CHにセットしておきます。好みや目的に応じてその他のポジションにセットして使用してください。

5CH:

全てのスピーカーがフルチャンネルで使用できます。

4CH:

センタースピーカーを設置できない場合はこの位置にセットします。センターチャンネルからの音は左右フロントスピーカーに振り分けられて出力されます。

2CH:

センタースピーカーおよびサラウンドスピーカーを設置できない場合はこの位置にセットします。全チャンネルからの音が2チャンネルにミックスダウンされ、バーチャルサラウンドとなります。[フロントスピーカーとサラウンドスピーカーからはそれぞれ同じ音が出力されます。(テストトーンを除く。)]

- ディーシーイン  
**14 DC IN端子**  
 付属のACアダプター( PA-SR601 )を接続します。
- 15 デジタル入力端子(DIGITAL INPUTS)**  
デジタル インプット  
 デジタル出力端子を持つ外部機器を接続します。  
 OPTICAL端子とCOAXIAL端子の両方に入力信号がある場合は、OPTICAL端子への入力信号が優先されて本システムで再生されます。  
オプティカル  
 OPTICAL:  
 光デジタル出力端子を持つ外部機器( DVDプレーヤー、MDレコーダー、ビデオゲーム機など )を、付属の光ファイバケーブルを使用して接続します。  
コキシアル  
 COAXIAL:  
 同軸デジタル出力端子を持つ外部機器( DVDプレーヤー、MDレコーダー、ビデオゲーム機など )を、付属のピンプラグケーブルを使用して接続します。
- 16 アナログ入力端子(ANALOG INPUTS)**  
アナログ インプット  
 外部機器のアナログ出力端子をこれらミニ端子に接続します。接続には付属のステレオミニプラグコードを、または必要に応じて市販のピン( ステレオ )/ ミニ( ステレオ )変換コードを使用します。  
フロント  
 FRONT:  
 外部機器のアナログ( ステレオ )出力端子を接続します。  
 4チャンネル出力を持つパソコン用サウンドボードを接続する場合は、サウンドボードのフロントチャンネル用出力端子をここに接続します。  
サラウンド  
 SURROUND:  
 4チャンネル出力を持つパソコン用サウンドボードを接続する場合は、サウンドボードのサラウンドチャンネル用出力端子をここに接続します。

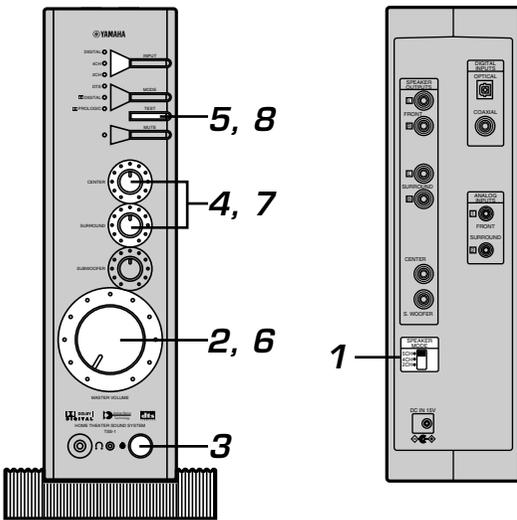
電源スイッチをスタンバイ状態にしても、下記の設定は消えずに記憶(メモリー)されています。ただし、ACアダプターを抜いた場合は消えてしまいます。  
 メモリーが消えてしまったときは、再設定をしてください。

インプットモード( INPUT )  
 サラウンドモード( MODE )

# スピーカーの音量バランスを調整する

テストトーンを聞きながら、フロント、センター、サラウンドの各スピーカーの音量レベルを調整します。内蔵のドルビーデジタルデコーダー、ドルビープロロジックデコーダー、およびDTSデコーダーによる音場を効果的に再生するために、各スピーカーの音が実際の視聴位置から同じ大きさに聞こえるように調整してください。

\* 一度この調整をおこなった後は、マスターボリュームコントロールつまみのみを使用してシステム全体の音量を調節することができます。



- 1 スピーカーモードスイッチを「5CH」にセットします。
- 2 マスターボリュームコントロールつまみを左いっぱいまで回し、音量を最小にします。
- 3 本システムの電源をオンにします。
- 4 センターおよびサラウンドレベルコントロールつまみをそれぞれセンター位置にセットします。



- 5 テストキーを押します。
- 6 マスターボリューム(主音量)を通常聴くレベルまで上げます。  
\* テストトーンが各スピーカーからそれぞれ約2秒間、下記の順にて出力されます。  
フロント(左) → センター → フロント(右)  
↑ サラウンド(左) ← サラウンド(右) ←
- 7 テストトーンを聴きながら、センターおよびサラウンドの音量レベルをフロントスピーカーの音量と同じになるように調整します。  
\* フロントスピーカーおよびサラウンドスピーカーの左右音量バランスは、スピーカーの配置位置を変えることで調整してください。
- 8 調整が終了したら、もう一度テストキーを押します。  
\* テストトーンが消えます。

## メモ

スピーカーモードスイッチが「4CH」にセットされている場合  
センターチャンネルからのテストトーンは、フロントスピーカーから左右同時に出力されます。

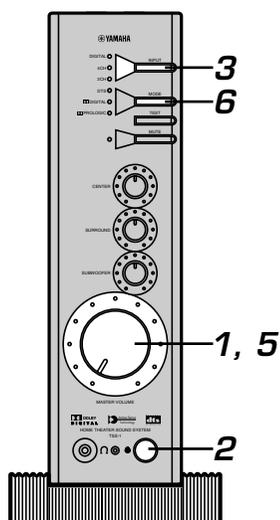
スピーカーモードスイッチが「2CH」にセットされている場合  
左サラウンドチャンネルからのテストトーンは左フロントスピーカーから、右サラウンドチャンネルからのテストトーンは右フロントスピーカーからそれぞれ出力されます。出力の順序は次のようになります。

フロント(左) → 仮想サラウンド(左) → フロント(右)  
↑ 仮想サラウンド(右) ←

サブウーファーの音量レベルは、ソースを再生する際、その再生音を聴きながら調整してください。

# 再生のしかた

- \* 本システムの電源をオンにする前に、使用する外部機器の電源をオンにしてください。



**1** マスターボリュームコントロールつまみを左いっぱいまで回し、音量を最小にします。

**2** 本システムの電源をオンにします。

**3** インプットセクターキーを押して、再生するソースに適したインプットモードを選択します。

\* 選択したインプットモードのインジケーターが点灯します。

\* インプットモードについては、11ページ、「各部の名称とはたらき」、①を参照してください。

**4** 外部機器でソースの再生を開始します。

**5** マスターボリューム(主音量)をお好みのレベルまで上げます。

**6** 必要に応じ、サラウンドモードセクターキーを押して適切なサラウンドモードを選択します。

\* サラウンドモードについては、11ページ、「各部の名称とはたらき」、②を参照してください。

# 故障かなと思ったら

下の表にしたがってもう一度確かめてみてください。そのうえで正常に動作しないあるいは下記以外の何か異常が認められる場合は、本機の電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお問い合わせの上サービスをご依頼ください。

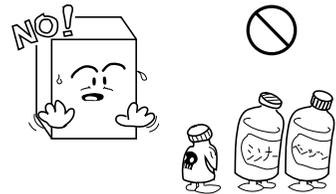
状況	原因	解決方法
スピーカー/サブウーファーから音が聞こえない。	ACアダプターの電源プラグがコンセントにしっかりさし込まれていない。	電源プラグをコンセントにしっかりさし込みなおしてください。
	本機がスタンバイ状態になっている。	アンプユニットの電源スイッチを押して本機の電源をオンにしてください。(電源インジケーターが点灯します。)
	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。
	インプットモードの選択が適切でない。	インプットセレクターキーを使用して適切なインプットモードを選択してください。
	音量レベルが低すぎる。	マスターボリュームコントロールつまみを右に回して音量を上げてください。
	ミュート機能がはたらいている。(ミュートキーの左にあるインジケーターが点灯している。)	ミュートキーを押してミュート機能を解除してください。
サラウンドスピーカーから音がでない。	サラウンドレベルの設定が最小になっている。	サラウンドレベルコントロールつまみを右に回して音量を上げてください。
	サラウンドモードがオフになっている。	サラウンドモードセレクターキーを使用して適切なサラウンドモードを選択してください。もしもサラウンドモードを選択できない場合は、入力ソースをDTS、DOLBY DIGITAL、またはDOLBY PROLOGICでエンコードされたものに変えてください。
センタースピーカーから音がでない。	センターレベルの設定が最小になっている。	センターレベルコントロールつまみを右に回して音量を上げてください。
	アンプユニット背面のスピーカーモードスイッチが「2CH」または「4CH」にセットされている。	スピーカーモードスイッチを「5CH」にセットしてください。
	サラウンドモードがオフになっている。	サラウンドモードセレクターキーを使用して適切なサラウンドモードを選択してください。もしもサラウンドモードを選択できない場合は、入力ソースをDTS、DOLBY DIGITAL、またはDOLBY PROLOGICでエンコードされたものに変えてください。

状況	原因	解決方法
D T S、または <input checked="" type="checkbox"/> D O L B Y DIGITALモードインジケータが薄暗く点灯しているのに、センタースピーカーおよびサラウンドスピーカーから音がでない。	インジケータが薄暗く点灯しているときは、入力ソースがDTS、またはDOLBY DIGITALでエンコードされたものであることを意味します。この場合、入力信号は2チャンネルにミックスダウンされてフロントスピーカーのみから再生されます。	サラウンドモードセクターキーを使用して適切なサラウンドモードを選択してください。インジケータが明るい点灯に変わり、サラウンドモード再生により、センタースピーカーおよびサラウンドスピーカーから音がでます。
DOLBY DIGITALでエンコードされたソースを入力しているのに、( <input checked="" type="checkbox"/> DOLBY DIGITALモードインジケータが薄暗く点灯し、 ) <input checked="" type="checkbox"/> DOLBY PROLOGICモードインジケータが明るく点灯している。	DOLBY DIGITAL 2チャンネルでエンコードされたソースを入力している。	入力ソースが5.1チャンネルに対応している場合は、再生機側で5.1チャンネルを選択してください。(入力ソースが5.1チャンネルに対応していない場合は、 <input checked="" type="checkbox"/> DOLBY PROLOGICモードでサラウンド音声をお楽しみいただけます。)
音が歪む。	入力信号のレベルが高すぎる。	接続機器側の出力レベルを下げてください。
ノイズが気になる。	入力信号のレベルが低すぎる。	接続機器側の出力レベルを上げてください。
	接続が不良または不完全。	接続をやり直してください。
	アンプユニットがモニターに近づきすぎている。	アンプユニットをモニターから離して設置してください。

## お手入れには

ふつうの汚れは、軟らかい布で軽く拭き取ってください。汚れがひどいときは、水で薄めた洗剤を布にふくませ、よくしぼって拭き取ってください。そのあと、乾いた布で仕上げてください。

ベンジン、シンナーなどで拭いたりすると、変質したり、塗料が剥げることがありますので使用しないでください。また、接点復活剤はご使用にならないでください。



# 仕様

## アンプユニット

定格出力	サテライト：6W (1 kHz, 4 Ω, 10% THD)
	サブウーファー：18W (100 Hz, 4 Ω, 10% THD)
入力感度	200 mV
ヘッドホン出力/インピーダンス	450 mV/30 Ω (1 kHz, 200 mV)
消費電力	40 W
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	113×272×206 mm
重量	1.5 kg

## サテライトスピーカー

型式	フルレンジ、防磁型
スピーカーユニット	5 cm スプルースコーン
インピーダンス	4 Ω
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	70×95×118 mm
重量	0.4 kg

## サブウーファー

型式	ヤマハ・アクティブ サーボ・テクノロジー方式
スピーカーユニット	13 cm コーン、防磁型
インピーダンス	4 Ω
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	220×224×222 mm
重量	3.4 kg

## 総合特性

再生周波数帯域	40 Hz ~ 20 kHz
---------	----------------

## 付属品

- ACアダプター( PA-SR601 ) 1個
- ステレオミニプラグコード( 1.8m ) 2本
- 光ファイバーケーブル( 1.0m ) 1本
- ピンプラグケーブル( 1.8m ) 1本
- アンプユニット用スタンド( 1個 )
- ネジ( 2本 )
- パッド( 24個 )
- 固定用テープ( 1個 )

\* 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

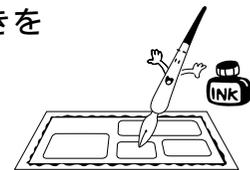


これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

### 音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

### 保証書の手続きを



お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。保証書に販売店名、購入日などがないと、保証期間でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、十分ご注意ください。



# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

- **保証期間**  
お買上げ日より1年間です。
- **保証期間中の修理**  
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- **保証期間が過ぎているとき**  
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。
- **修理料金の仕組み**
  - ◆ **技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
  - ◆ **部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
  - ◆ **出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- **補修用性能部品の最低保有期間**  
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- **持ち込み修理のお願い**  
故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。
- **製品の状態は詳しく**  
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。  
※ 品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

- **スピーカーの修理**  
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。
- **摩耗部品の交換について**  
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。  
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。  
摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

#### 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

## ■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問い合わせは

### お客様ご相談センター

TEL (0570) 01 - 1808 (ナビダイヤル)

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

-----  
携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。

TEL (053) 460 - 3409

FAX (053) 460 - 2777

住所 〒430-8650

静岡県浜松市中沢町10-1

ご相談受付時間 10:00~12:00、13:00~18:00

(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

## ■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内  
TEL (011) 512 - 6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F  
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号  
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F  
TEL (03) 5762 - 2121

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内  
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2  
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F  
TEL (052) 652 - 2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16  
ヤマハ(株)千里丘センター内  
TEL (06) 6877 - 5262

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14  
TEL (082) 874 - 3787

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7  
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内  
TEL (087) 822 - 3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



### ★永年ご使用のAV製品の点検を!

#### こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



#### すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

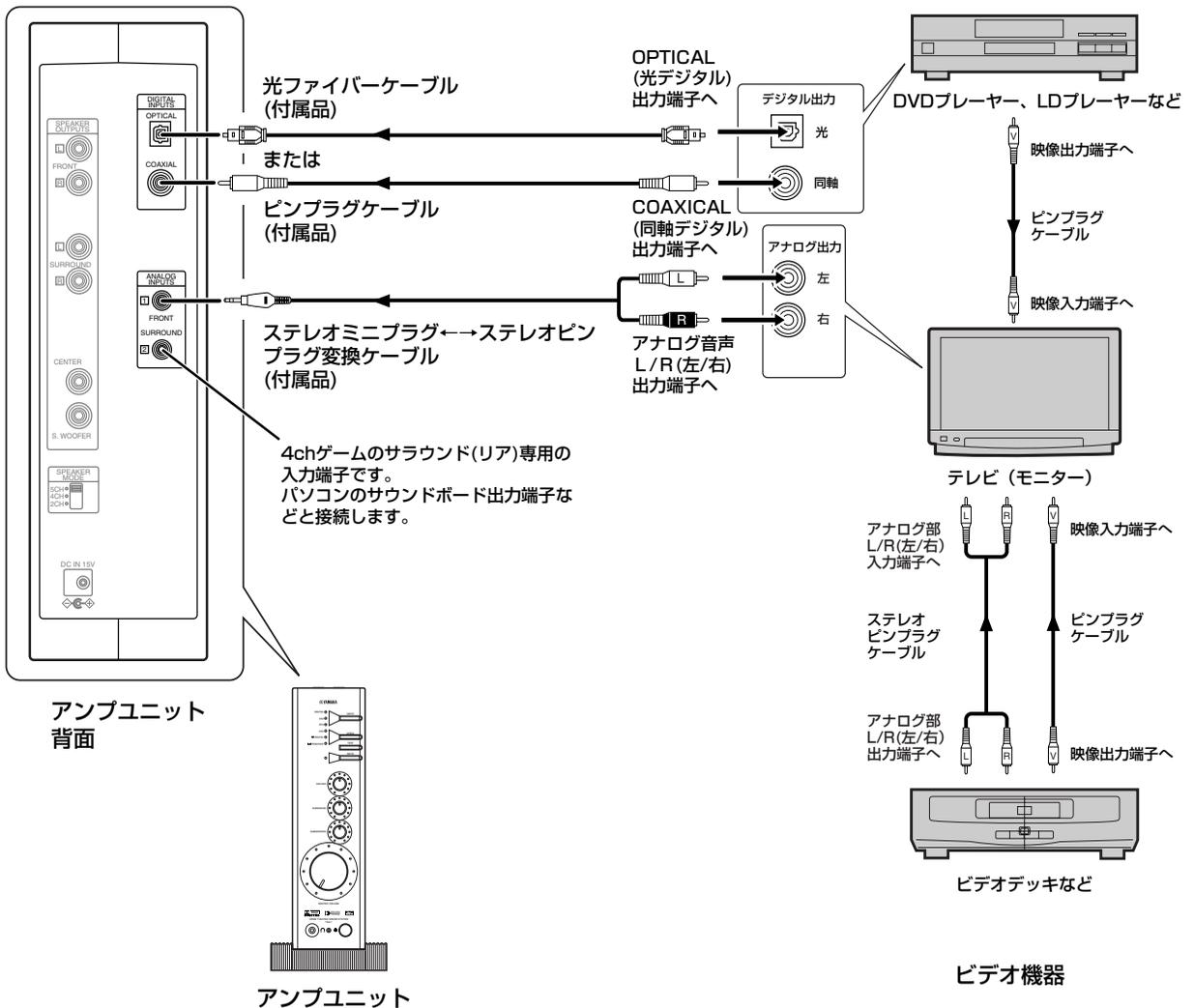
ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>

# TSS-1

## ビデオ機器(テレビ、ビデオ、DVDプレーヤーなど)との接続のしかた

### 接続例



### ご注意

- OPTICAL (光デジタル) 入力端子と COAXIAL (同軸デジタル) 入力端子へ同時にデジタル信号が入力された場合は、OPTICAL (光デジタル) 入力端子への入力が優先されます。
- 図は一例です。お使いの機器により接続のしかたが異なる場合があります。接続する機器の取扱説明書を参照ください。